



へ12  
5091  
12

源氏袖鏡才十二

五 厚くわ木

六 あけまね

七 うきまね

八 うけらふ

九 てまねい

十 けりうのうらま



源氏物語の巻名  
一 桐  
二 桐  
三 桐  
四 桐  
五 桐  
六 桐  
七 桐  
八 桐  
九 桐  
十 桐



源氏

五 宿木

今上のみまゝ、明石のぬ服よりあつてぬむしめ  
を一人より好つたりぬとて、あつたの女御の夏の  
比うられさせ多ひぬけは、十日よたなりぬとさう  
へうんみううらまゝあつても、おちをよけ、黄  
より外よえうくし、まゝ人せよ、あつた、御正月  
の事か、うらふり、せうくぬ、基をうらせ、ぬと  
て、よまのりお、あつた、たやま、く、い、わ、す、ま、は  
あつた、の、ぬ、は、あ、つ、た、う、ら、ま、ま、ん、の、り、ゆ、い、女  
ら、あ、つ、た、い、女



二乃えとつけてうちぬつる也きてこころんは  
いさめいさめけをまうりぬまわさくれと  
てまけいけ花一枝ゆふもと此前の菊  
をきいておををらぬ一花ゆふてうら  
よのつね乃うきひのけりお花さくは  
おゆつてみまをみと

およあをいれそのいさめいさめけり  
れ色にあせもさうまうやうおゆりくちのめ  
うぬてつあはむいあうりまよみとのれむ  
こころんはくわみこころんはくわみこころんは

おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物

おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物  
おゆり物とりよふおゆり物とりよふおゆり物



しつゝ入るゝふしへのいかにしつゝと成るらん

ようやくこそみえんうちをらる白あはれらるらん  
をけり物かのも中乃君

さしおまふりさあはれれらるる  
あはれらるる海うもさるる夕暮の久長ははれれ  
りあまのれ中よ六の君はぬ月約のあはれれ  
さるるくあはれらるるいふはれれ白き約のい  
ふらりし中よ六の君はぬ月約のあはれれ  
とらるるいふはれれらるるいふはれれ  
らのいふはれれらるるいふはれれ

昔の八月十のうらとていふはれれ  
おひらりよ月やうくいふはれれ  
はれれのぬ中おいて夕暮

大それた月たにちとらあはれれ  
てみしぬ君よとあはれれ  
はれれらるる中よ六の君はぬ月約のあはれれ  
いふはれれらるるいふはれれ  
の月たにちとらあはれれ  
又ありぬをいふはれれらるる  
いふはれれらるるいふはれれ







てやうけさるれん又なまり終つたさう飯はう  
よむまじつけあつたさういふ

終むさう敷とたつたさういふ飯はう  
しらふうみおらら昔つらひよさ活よた  
ういおとさうまてかりおい人とらうを  
てはつ終の事も又あ終名のゆをさう  
うせてさうさみまふいさんとさうさう  
て何窓葉の寺おらう始いさういりう  
んやとまらうら始喜れりからさうすう  
うせて中れあらのゆいさうあうてりせ終

うら

終り本とあのおらいあれこのいさ  
もさうさうさうさうさうのた

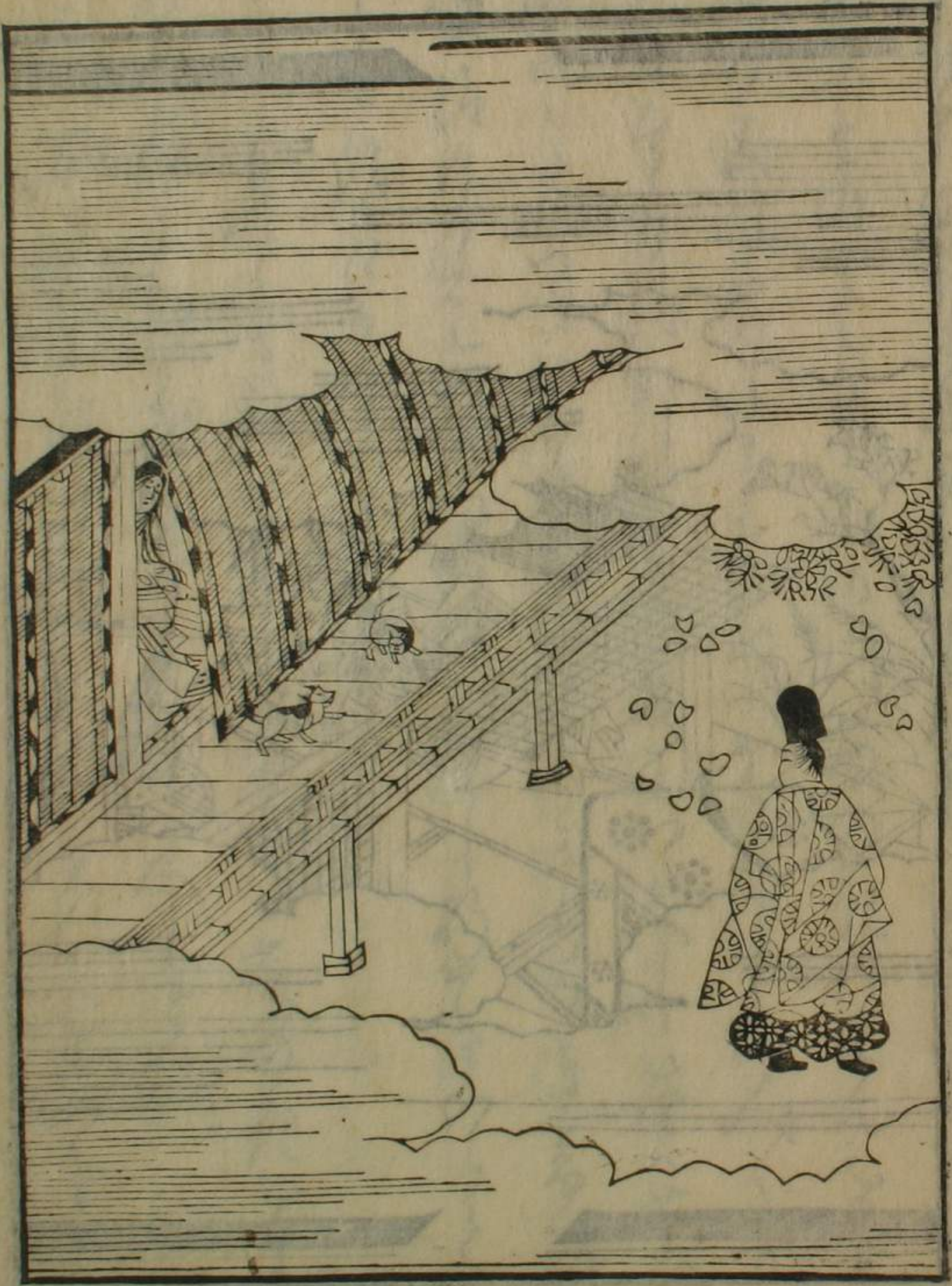
あさうらうら本ありの飯やうらまう  
さうけつあこのあの中のをれゆりさう  
さうの中よおたれさうさうあうさう  
さうらうにも見始て自

やあおあ地あうさうあさうさうあ  
のさうさうさうして中れ君

終りあ終りのさうさうさうのさうさうのめ



く風よつげくよう忘れはまきようんさくれまら  
 乙のた常流くわのわり始申れちちとひら  
 西服よあふねん母名ちいらのまけのおれよ  
 ふたりよたれんたれよわてむらちんらり  
 よたりし、おんうわしこのわりて申のちち  
 わたいたんありあは海しんちんあひをり  
 よくはりりありあおのちちんちんあひを  
 つらうても姉君よいらん人よみまわとの始  
 かいねとあせりると申のちちんらり  
 おりよあこのまをうりり我ちちちんらり













よふかきふくむるにあら

六 東本屋

此の君れよは申れ君と物渡してウツル  
みー人のこころうきふかひうきふか  
そのまて物よせん申のま  
こころさしにせふふうきうきと物よかよき  
みとふれつたのまんじこのまよむいんせん  
ぬと人の少将をうらのぬいひきめするま  
中てやううして月とるまねもらふまのぬ  
じとめふくうきうきうきうきうき  
の少将のこころ乃る









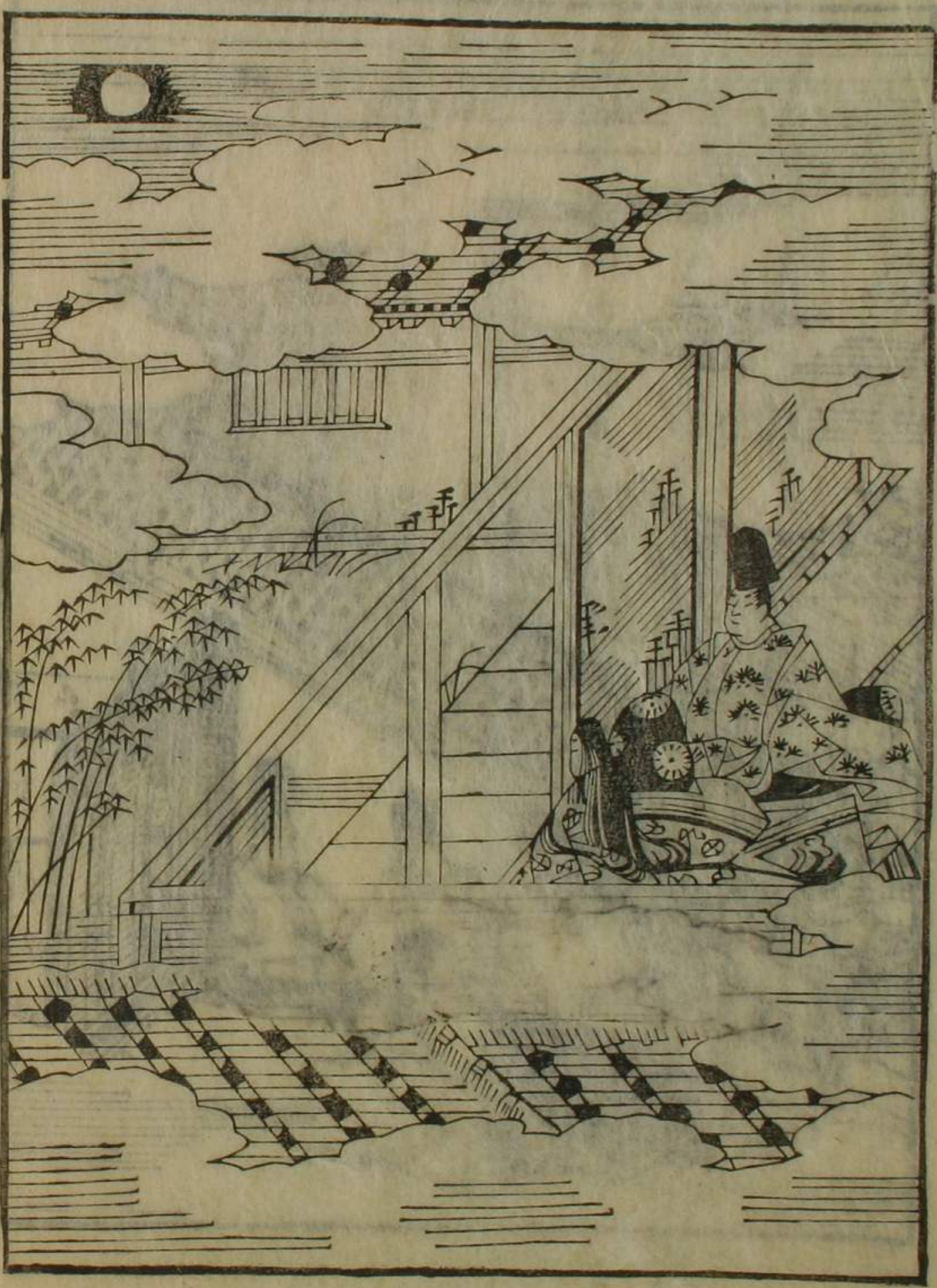




しみよめつりふりさくら物月歌よとて  
 めろくせんかへて弁の尾  
 やうわ本のまらうわわらむされとむ  
 えてそめろ月くれうわう大ね  
 里れ名もむらうふらう人のせよ  
 うわせろ移書の月りき

しみよめつりふりさくら物月歌よとて  
 めろくせんかへて弁の尾  
 やうわ本のまらうわわらむされとむ  
 えてそめろ月くれうわう大ね  
 里れ名もむらうふらう人のせよ  
 うわせろ移書の月りき





七 浮舟

自まいか乃よん始くこれ君の面影と  
 まれくく地をよふくりぬ月ついでら  
 んくくむらさき空浩くわをみくりのうき  
 やうかりつと文とみ葉の枝もけてむき  
 にまこかりよふくら花つかりてほくぬさく  
 くら枝もくありあつむやのき  
 くらむらありぬおふあきと君くめあつむ  
 ふまのよふきんくわわかりあのもや白  
 文のくんく人の文くわとくうくく空浩の







よらむいさめえりあふ大将をばらめて  
わらわらむと女にそりかんもなるとそりあえ  
うらそりあむもあむりくらよらむらに物と  
うらむらあむらむらむらむらむらむらむら  
うらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
わらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

たしまのむらむらむらむらむらむらむらむら  
わらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

てうほ川とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井

橋乃小流の多かりとこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井  
あつとて西井とこしほこれきん橋のあつとて西井





海みれみさうふらりる者うわもさうせ  
 してう我のまあへきあかりやすて月はあめわ  
 こりけい山ち地りしてて水たよ旬文  
 あうあわぬうさこのやうもみくわすてん  
 くらこのりりささちもつちるさう水た  
 水海さうさうれ里人いうるんたれあま  
 ふるさうまはこれとさうさうさうて浮  
 里のくはわりあめさうい山さうのうれ  
 けりさうさうさうさうさうさうさうさう  
 へのさうさうさうさうさうさうさうさう





世はくらくくたれせぬまのれあまやあふりて  
 とたきあふりつるの色は浮舟  
 つれくとあはれなるまの神さ  
 とみよと満ちりてはつるのまのまのまのまの  
 けりつるのみまやんりてくくくくくくくくくく  
 とあふり人をまて白れつるのまのまのまの  
 文のまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 あんとあつりて女のこゝろ

浪ふりつるもまのまのまのまのまのまのまの











しうちけしきぬりあたらふまよなきいものしんげと  
あはれくみこちりたりうしあわ

強さつひもはにましくまはるるはなはるる  
まうまじしんげをさくおちよはに記んちるんは  
ほりちりまくと種よむまわらわたりあはれを  
うしあわ

あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
うしあわしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
又ありうしあわと思ふまはるるていひのちせよと  
て寺人くまうらうしあわもあはれしんげにうしあわ

清むよしんげにうしあわ

のちよあはれしんげにうしあわ  
おはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ

清の音れしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ  
あはれしんげにうしあわのあはれしんげにうしあわ







みまらして

くら花のうらあはらうに時きふしてう  
なくうりたれうらとふ名もうと海一うて

然も又うまあつやまよりまうそくしれやう

ふれうまびとめりん 明石の二ふれまの所  
に宰相の君とりよ女房いりあう乃はまひ人  
かりくかれまけまことやうて又まら小宰相

あられあうまひ人いそくわひとねまあま

まいつりあうれをうとね

はまのりいこくちまびうらうまかた人

のうらまてまけまやうまら六月よとと桑院り  
ゆ八海ありみこまらうんたらめぬよ人お  
れ人ういこめれ日ハ源氏の後れぬまめ次の  
日ハ世業上の所まうかりけ何ううまこらうん  
まらら小あう一のふのえれらりうとまお  
てうまゆこまらうくむらうとのね一はあり  
ま海とんくくうらりのまあくたれていふらこの女  
二のまにれこまられにまかまもとおあ  
てまのまらうまらまらうまらうまらまの  
まらうれまのまらまらまらうてりうあら













Handwritten text in a cursive style, likely a signature or a note, located on the right page of the notebook. The text is faint and difficult to decipher.







まゝに思ふに此世にこゝろさけりてうせおつた  
かばもさけぬふと口おしておくとまじ  
ふらちやゆいふらり其はらえのよふら  
あふりの信おとてたうと人ありはすあ  
まらの母あま君又あやうらののうとのうま  
ふらつきて初瀬はゆきてくさよ宇治の  
後とりあふ申やうらうら今の平よけ治の  
後や  
うらふふらふらののふらうらうらうら女房  
ちうらうらふらふらゆきゆきゆきゆきゆき  
あふらうらひのゆるんきうらうらうらうら

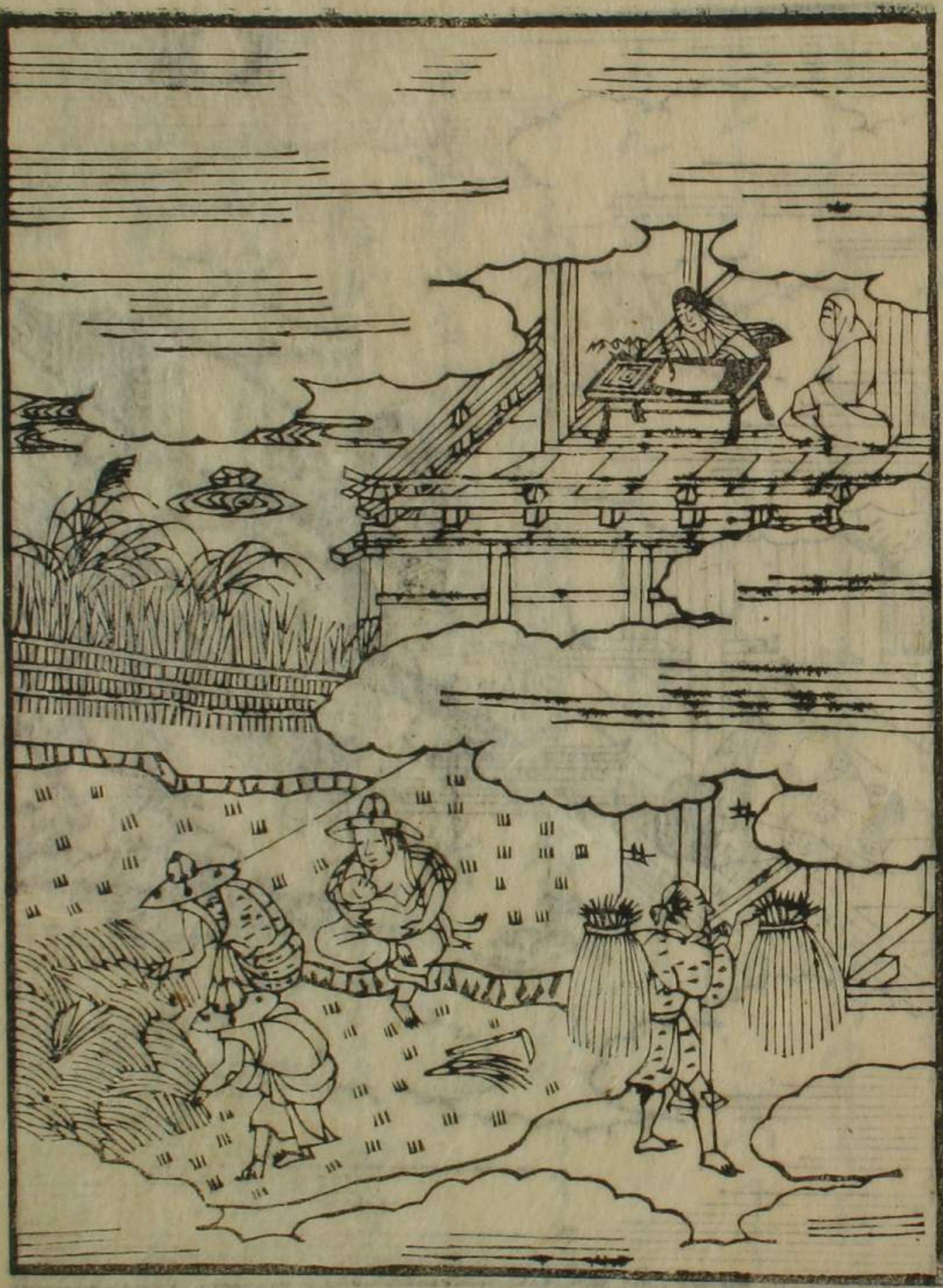
さうりてお守とふあま守るるれい  
け人とむらひうて車おのせておたりやふ  
のまゝにさうひのあけさうけしやも  
ひらうれておわりま宇治まふ人あゆり  
さうらよお守にうらうらうらうらうら  
おらうらうらまね一あうらのあうらうら  
あふらまよまよのうらうらうらうら  
かうてはうらうらうらうらうらうら  
一あうらうらうらうらうらうらうら  
の君もあまもあまもあまもあまもあまも



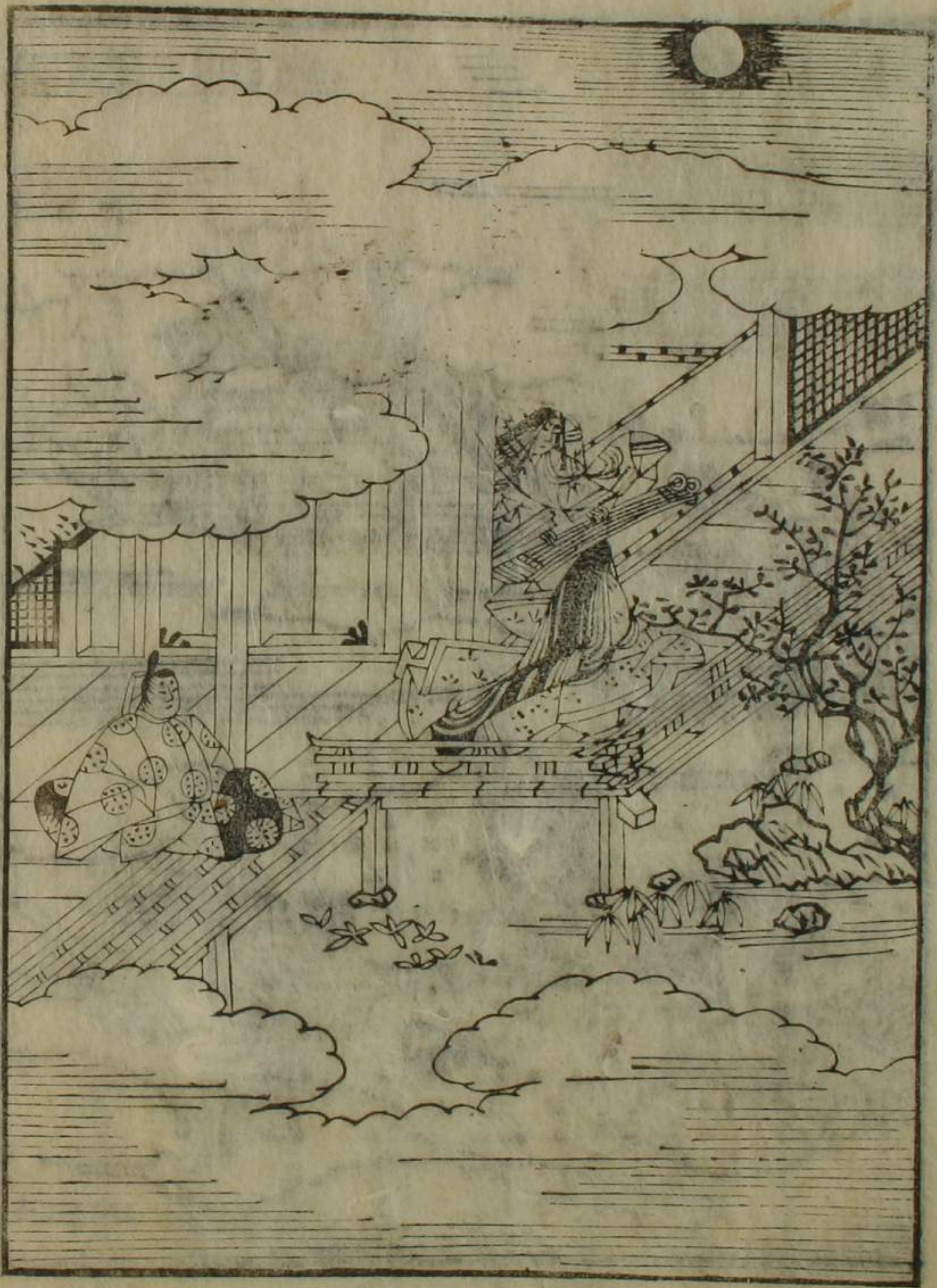
いづきかの

かばるけー後のにらむかばるけーみ  
ひてたせうきしー

あゝてうとせの中ふちうもほろろ  
月のやこふけ傍部ののりされ居るよ  
アしきとめさくらうまひてけうし月さ  
うろよほきりうろよとくしうわぬい  
うろくくそのむすあれいーのむに申  
おあわりしーのあうりうろよとくし  
けらよおのきれうろよとくし申お







あつたおののふよまのくれ女房も我らあ  
 ゆらんるるをくまのまののいせの中よあは  
 らそやふらまうれをのりそをそいむらう  
 らんとそまもらぬぬらひのまらる  
 うらうそあひまはれあまのしり  
 とそむくまはりやう。又中將  
 松史のまをそらひて  
まはれ  
 のあまゆまひぬあまま  
 木の野にるまはけまらうらう夜むく  
 れる者ふらうの家月



あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

ゆり二りの秋居云

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ  
あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ

あまのついでに月をあらはれとこよ人もかかぬ



もろしにあらふあまのさかたにまはるる  
まはるる

心もたれぬあまのさかたにまはるる  
まはるる  
人しきとせむれにぬ

うかおのちひさしきあまのさかたに  
まはるる  
人としきとせむれにぬ  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる

あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる

あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる

あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる

あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる  
あまのさかたにまはるる



神少人... 花のよれを  
白雲ののちの中將

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...

よこれ... 君を...  
よこれ... 君を...



十 夏代浮橋

横川の僧都京へつてくら時明石の中宮乃  
れ主人とてうきまればを定治とてむらひら  
しありと海より来てあまたなむらひらけ  
たりとすたり月も日もそはれんといふは  
みなりとありしむらむら大將よつをせ始  
たりつむら夏れむらむらむらむらむら  
せんとおゆめせむらむら又白のむらむら  
我に中くまむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
卯月のむらむらむらむらむらむらむら  
く佛もやうくやうむらむらむらむらむら  
して僧都の文をことせむらむらむらむら  
て浮海のむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
佛もやうくやうむらむらむらむらむら

はのむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむら





何れもおかしき事なるおのゝまの文のあり  
 とも始りす才のよふもしあはれん一始  
 りのいとあやしき人のあはれん一始  
 ちやとあはれん一始とそとそとのやうに  
 くりされん一始のちもあはれん一始

何れもおかしき事なるおのゝまの文のあり  
 とも始りす才のよふもしあはれん一始  
 りのいとあやしき人のあはれん一始  
 ちやとあはれん一始とそとそとのやうに  
 くりされん一始のちもあはれん一始











かきあがり神カミ孫ミとらんようれひの大神を  
あつりすふありとていあもらんこぞんかま  
なりたれんやもしくんうあよまらぬ  
まてくれとておんまひありくのこ  
きりなふとていんも今いま昔むかしの可かなり  
むせよつとて重おも宝たからなりんとりよ  
こぞいれよわらむらんや

明治二己亥仲春全日書林堂新刊



